

別 紙

公開概要書

受付日	令和 7 年 5 月 23 日	回答日	令和 7 年 6 月 10 日	担当課	危機管理課
意見等の内容	萩・石見空港（益田市）に防災備蓄施設を設置することで、国の災害対策に資すると同時に、益田市の地域振興・人口減対策・雇用創出にも大きく貢献することが期待される。 ■ 石見空港周辺が防災備蓄拠点に最適な理由 地理的安全性と安定性 ・ 空港周辺には活断層や原発が存在せず、日本有数の安全地帯 ・ 標高 54m の高台に位置し、津波の影響を受けない立地 ・ 積雪・日照条件も安定し、航空運用に極めて適している 充実したインフラ・水資源 ・ 清流・高津川を擁し、十分な水資源を確保可能 ・ 山陰道（益田 IC）や工業団地へのアクセスも良好 ・ 国道 9 号、国道 191 号の複数の国道による輸送が可能 ・ 1 日 2 便しか使用されていない空港のため、緊急時の輸送機による災害地への早急な輸送が可能 広大な土地の確保が可能 ・ 空港周辺には国営開拓地や平野部が広がり、施設建設に最適な条件 国防・国土強靱化に資する機能 ・ 自衛隊による施設管理も現実的で、国からの予算確保も見込まれる ・ 災害対応訓練や物資輸送の拠点として全国的にも戦略的価値が高い ■ 益田市への効果と展望 人口減少対策：若い自衛隊職員の定住促進による人口増加効果 雇用創出：第二・第三次産業の活性化による地域雇用の確保 市のイメージアップ：「国の防災拠点」として全国から注目される存在に 財政効果：国からの支援金・交付金により市の財政基盤が強化される すでに益田市議会では令和 2 年には全会一致で可決された構想であり、近隣自治体である津和野町・吉賀町議会でも本構想は賛同・可決されており、地域一体となった推進体制が整っております。 本構想の実現に向け、国への積極的な働きかけや計画化をご検討いただきたい。				
回答の内容	空港周辺を活用した災害対策の検討についてご提言頂いております萩・石見空港につきましては、本年 1 月、国土交通省の羽田発着枠政策コンテストによる東京線の 2 往復運航継続（令和 11 年 3 月まで）が決定し、今後も、島根県、全日本空輸株式会社、近隣市町、関係機関と一体となり、東京線を活用した地域の活性化、そして路線の維持・充実に最優先課題として取り組んでまいります。 防災対策としては、島根県内には、県内の広域防災拠点として、東部に島根県広域防災拠点（防災備蓄倉庫・臨時ヘリポート及びヘリ駐機場・宿泊施設）、西部に、島根県浜田防災備蓄倉庫（防災備蓄倉庫・臨時ヘリポート）があり、大規模災害時に県外からの救援物資の集積配給や、ヘリコプター等による物資輸送等、県域の災害支援活動が行われるように整備されており、今後、萩・石見空港がこのような県内の広域防災拠点等とのネットワークを構築し、円滑な広域支援及び物資輸送を行う中継局施設として活用できるように、島根県との連携を図ることで防災対策の強化に繋げて参りたいと考えます。 萩・石見空港周辺への防災備蓄施設の誘致につきましては、現時点での具体的な予定はありませんが、今後の空港活用における一つの選択肢として共有をさせていただきます。				